



日汉双解 日语应试必携惯用句

日本語受験用必携慣用句



南海 曹捷平 编著

世界图书出版公司

日本語受験用必携慣用句

日 汉 双 解

日 语 应 试 必 携 惯 用 句

南 海 曹 捷 平 编 著

世界图书出版公司

上海·西安·北京·广州

图书在版编目(CIP)数据

日汉双解 日语应试必携惯用句 / 南海, 曹捷平编著.
上海: 上海世界图书出版公司, 2007.9

ISBN 978-7-5062-8881-1

I. 日… II. ①南…②曹… III. 日语—社会习惯语—日、
汉 IV. H363

中国版本图书馆CIP数据核字(2007)第099571号

日汉双解 日语应试必携惯用句

南海 曹捷平 编著

上海世界图书出版公司出版发行

上海市尚文路185号B楼

(公司电话: 021-63783016转发行科)

邮政编码 200010

常熟市大宏印刷有限公司印刷

如有印刷装订质量问题, 请与印刷厂联系

(质检科电话: 0512-52621873)

各地新华书店经销

开本: 850×1168 1/32 印张: 7.5 字数: 170 000

2007年9月第1版 2007年9月第1次印刷

ISBN 978-7-5062-8881-1/H·741

定价: 12.80元

<http://www.wpcsh.com.cn>

本书的特点和使用说明

日语惯用句是日本人民长期形成的一种固定表达方式，除本民族语言中形成的以外，有相当一部分来自中国古典汉语，也有来自世界各国的。这些惯用句形式简短，在日常会话或文章中能起到画龙点睛的作用。

对我国广大日语学习者而言，那些来自中国古典的惯用句，如“悪事千里を走る（坏事传千里）”、“朱に変われば赤くなる（近朱者赤近墨者黑）”等透过外形稍加思索便能理解其意；那些来自世界其他各国的如“時は金なり（时间就是金钱）”、“転石苔を生せず（流水不腐，户枢不蠹）”等从外观上也基本可以判断出含义。最大的难点是对日本土生土长的惯用句的理解和掌握。而恰恰正是这一部分又往往被纳入含有惯用句题型的各类日语考试的必出题范围，如“全国导游资格考试”等。

针对这一难点，本书从数以千计的日语惯用句中严

格精选出最为经典的部分。形式上采用日汉双解，整体按照五十音图顺序排列，并附有实用会话例句及其汉译，所有日语句子均加注假名读音，最后附加一定数量的练习题，力求使学习者能最快、最有效地掌握这些出题率极高的惯用句。对于那些供职于外企的上班族而言，努力做到一天完全牢记一句的话，一年下来便可以彻底掌握这些日语惯用句中的精华部分。

书中错误和不足之处，敬请批评指正。

编 者

2007 年春

目次

あ

1. 逢^あうは別^{わか}れの始^{はじ}め 1
2. 青^{あお}菜^なに塩^{しお} 1
3. 赤^{あか}子^この手^てをねじ^る 2
4. 秋^{あき}の日^ひは釣^つ瓶^べ落^おとし 2
5. 悪^{あく}銭^{せん}身^みにつか^ず 3
6. 浅^{あさ}い川^{かわ}も深^{ふか}く渡^{わた}れ 4
7. 朝^{あさ}寝^ね坊^{ぼう}の宵^{よい}っ張^ばり 4
8. 明^{あした}日は明^{あした}日の風^{かぜ}が吹^ふく 5
9. 足^{あし}元^{もと}から鳥^{とり}が立^たつ 5
10. 足^{あし}元^{もと}に火^ひがつく 6
11. 足^{あし}元^{もと}の明^{あか}るいうちに 6
12. 足^{あし}元^{もと}を見^みる 7
13. 明^あ日の百^{ひゃく}より今^{きょう}日の五十^{ごじゅう} 7
14. 当^あたっ^{くだ}て砕^{くだ}けよ 8
15. 頭^{あたま}隠^{かく}して尻^{しり}隠^{かく}さ^ず 9
16. 当^あたら^いずと言^いえども遠^{とお}から^ず 9

17.	あ	はっけ	あ	はっけ	10
18.	あ	た	た	た	10
19.	あつ	さむ	ひ	がん	11
20.	あと	あし	すな		11
21.	あと	かり	さき		12
22.	あと	まつ			12
23.	あと	の	やま		13
24.	あな		はい		13
25.	あばた	え	くぼ		14
26.	あぶ	はし	わた		15
27.	あぶ	はち	と		15
28.	あぶら	みず			16
29.	あめ	ふ	じ	かた	16
30.	あん		う	やす	17

い

31.	いざ	鎌倉		17
32.	石に	灸		18
33.	石の上にも	三年		18
34.	石橋を	叩いて	渡る	 19
35.	医者	の	不養生	 20
36.	急が	ば	回れ	 20

37.	^{いたち} 鼯 ^{さいご} の最後 ^ぺ っ屁	21
38.	^{いち} 一 ^{はち} か八か	21
39.	^{いちなん} 一難 ^さ 去って ^{いちなん} また一難	22
40.	^{いっすん} 一寸 ^{さき} 先は ^{やみ} 闇	22
41.	^{いっすん} 一寸 ^{むし} の虫 ^ご にも ^ぶ 五分 ^{たましい} の魂	23
42.	^{いぬ} 犬に ^{ろん} 論 ^ご 語	23
43.	^{いぬ} 犬の ^{とお} 遠 ^ぼ 吠え	24
44.	^{いぬ} 犬も ^{ある} 歩けば ^{ぼう} 棒 ^あ に当たる	24
45.	^い 言 ^{はな} わぬが花	25

う

46.	^{うえ} 上 ^{うえ} には上がある	26
47.	^{うえ} 上 ^{した} を下 ^{おおさわ} への大騒ぎ	27
48.	^{うおごころ} 魚心 ^{みずごころ} あれば水心	27
49.	^{うじ} 氏 ^{そだ} より育ち	28
50.	^{うそ} 嘘 ^で から出たまこと	28
51.	^{うそ} 嘘 ^{ほうべん} も方便	29
52.	^う 打 ^{いちがん} って一丸となる	30
53.	^{うで} 腕 ^{いっぽん} 一本 ^{すね} 脛一本 ^{いっぽん}	30
54.	^う 鶺鴒 ^{からす} のまねをする鳥	30
55.	^{うま} 馬 ^の には乗 ^{ひと} って ^そ みよ人 ^そ には添 ^そ うてみよ	31
56.	^{うま} 馬 ^{みみ} の耳 ^{ねんぶつ} に念仏	32

57.	うみ せんねん やま せんねん 海に千年、山に千年	32
58.	うら うら 裏には裏がある	33
59.	う ことば か ことば 売り言葉に買い言葉	33
60.	うり つる なす び 瓜の蔓に茄子はならぬ	33
61.	うわさ かげ さ 噂をすれば影が差す	34
62.	うんでい さ 雲泥の差	34

え

63.	え どの かたき ながさき う 江戸の敵を長崎で討つ	35
64.	えび たい つ 蝦で鯛を釣る	36
65.	えん い 縁は異なもの	36

お

66.	お こ したが 老いては子に従え	37
67.	お こ おし あさ せ わた 負うた子に教えられて浅瀬を渡る	38
68.	おお ぶ ろしき ひろ 大風呂敷を広げる	38
69.	おく ば もの はさ 奥歯に物が挟まったよう	39
70.	おご へい け ひさ 驕る平家は久しからず	39
71.	さと し お里が知れる	40
72.	おとこ ど きょうおんな あいきょう 男は度胸女は愛嬌	41
73.	おな あな むじな 同じ穴の貉	41

74.	おな かま めし く 同じ釜の飯を食う	42
75.	おに で ほとけ で 鬼が出るか仏が出るか	42
76.	おに かなぼう 鬼に金棒	43
77.	おに い ま せんたく 鬼の居ぬ間の洗濯	43
78.	おに かくらん 鬼の霍乱	44
79.	おに くび と 鬼の首を取ったよう	44
80.	おに め なみだ 鬼の目にも涙	45
81.	おに じゅうはちばんちゃ で ばな 鬼も十八番茶も出花	45
82.	おび みじか たすき なが 帯に短し襷に長し	46
83.	おぼ もの わら つか 溺れる者は藁をも掴む	46
84.	おも た きちじつ 思い立ったが吉日	47
85.	おや こころ こし 親の心子知らず	47

か

86.	か いぬ て か 飼い犬に手を噛まれる	48
87.	かえる こ かえる 蛙の子は蛙	49
88.	かえる つら みず 蛙の面に水	49
89.	かく あらわ 隠すより現れる	50
90.	かせ お びんぼう 稼ぐに追いつく貧乏なし	50
91.	か かぶと お し 勝って兜の緒を締めよ	51
92.	かっぱ かわなが 河童の川流れ	51
93.	か かんぐん ま ぞくぐん 勝てば官軍、負ければ賊軍	52

94. 金^{かね}が物^{もの}を言^いう 52
95. 金^{かね}の切^きれ目^めが縁^{えん}の切^きれ目^め 53
96. 壁^{かべ}に耳^{みみ}あり、障^{しょう}子^じに目^めあり 54
97. 亀^{かめ}の甲^{こう}より年^{とし}の功^{こう} 54
98. 痒^{かゆ}いところ^てに手^とが届^{とど}く 55
99. 枯^{かれ}木^きに花^{はな} 55
100. 可^{かわ}愛^い子^こには旅^{たび}をさせよう 55
101. 雁^{がん}が飛^とべば石^{いしがめ}亀^じも地^{だん}団^だ駄 56
102. 勘^{かん}定^{じょう}合^あって銭^ぜ足^にら^たず 56

き

103. 聞^きいて極^{ごく}楽^{らく}、見^みて地^じ獄^{ごく} 57
104. 聞^きくは一^{いつ}時^{とき}の恥^{はじ}、聞^きかぬは一^{いっ}生^{しょう}の恥^{はじ} 58
105. 雉^{きじ}も鳴^なかずば打^うたれまい 58
106. 木^きで鼻^{はな}をくくったよう 59
107. 木^きに竹^{たけ}を接^つぐ 59
108. 清^{きよ}水^{みず}の舞^ぶ台^{たい}から飛^とび降^おりるよう 60

く

109. 苦^くあれば楽^{らく}あり 60
110. 臭^{くさ}いもの^{ふた}に蓋^{ふた}をする 61

111.	^{くさ} 腐 ^{たい} っても鯛……………	61
112.	^{くち} 口 ^{おおさか} では大阪 ^{しろ} の城 ^た も建つ……………	62
113.	^{くち} 口 ^{くち} は口 ^{こころ} 、心 ^{こころ} は心……………	63
114.	^{くち} 口 ^は 八丁 ^て 手 ^は 八丁……………	63
115.	^く 蜘蛛 ^こ の子 ^ち を散らすよう……………	64
116.	^{くる} 苦 ^{とき} しい時 ^{かみだの} の神頼み……………	64

け

117.	^{げい} 芸 ^み は身 ^{たす} を助ける……………	65
118.	^け 怪 ^が 我 ^{こうみょう} の功名……………	65
119.	^{けんえん} 犬猿 ^{なか} の仲……………	66

こ

120.	^{こい} 恋 ^し は思 ^{あん} 案 ^{ほか} の外……………	66
121.	^{ごう} 郷 ^い に入れば郷 ^{ごう} に從 ^{したが} え……………	67
122.	^{こうぼう} 弘法 ^{ふで} にも筆 ^{あやま} の誤り……………	68
123.	^{こうぼうふで} 弘法筆 ^{えら} を選ばず……………	68
124.	^{こう} 紺屋 ^{あさって} の明後日……………	69
125.	^{こう} 紺屋 ^{しろばかま} の白袴……………	69
126.	^{こしょう} 胡椒 ^{まる} の丸吞 ^の み……………	70
127.	^こ 凝 ^し っては思 ^{あん} 案 ^{あま} に余る……………	71

128.	子 ^こ は 鋌 ^{かすがい}	71
129.	子 ^こ は 三界 ^{さんがい} の 首枷 ^{くびかせ}	72
130.	転 ^{ころ} ばぬ 先 ^{さき} の 杖 ^{つえ}	72
131.	転 ^{ころ} んでも た ^お だは 起 ^お きない	73
132.	子 ^こ を 持 ^も つて 知 ^し る 親 ^{おや} 心 ^{ごころ}	73

さ

133.	鯖 ^{さば} を 読 ^よ む	74
134.	猿 ^{ざる} も 木 ^き から 落 ^お ちる	75
135.	山椒 ^{さんしょう} は 小粒 ^{こつぶ} でも ぴりりと 辛 ^{から} い	75
136.	三人 ^{さんにん} 寄 ^よ れば 文殊 ^{もんじゅ} の 知 ^ち 恵 ^え	76

し

137.	歯 ^し 牙 ^が にも かけない	76
138.	地獄 ^{じごく} で 仏 ^{ほとけ}	77
139.	地獄 ^{じごく} の 沙汰 ^{さた} も 金次第 ^{かねしだい}	77
140.	獅子 ^{しし} 身 ^{しん} 中 ^{ちゅう} の 虫 ^{むし}	78
141.	舌 ^{した} の 根 ^ね の 乾 ^{かわ} かぬ うち	78
142.	舌 ^{した} は 禍 ^{わざわい} の 根 ^ね	79
143.	死人 ^{しにん} に 口 ^{くち} なし	79
144.	釈迦 ^{しゃか} に 説法 ^{せっぽう}	80

145. 重箱じゅうばこの隅すみを楊枝ようじでほじくる 81
146. 知らぬが仏し ほとけ 81
147. 尻馬しりうまにの乗る 82
148. 尻しりに帆ほを掛けるか 82
149. 死しんだ子この年としを数えるかぞ 83

す

150. 好きすこそ物ものの上手じょうずなれ 83
151. 雀すずめ百まで踊りおどを忘わすれず 84
152. 捨すてる神かみあれば拾ひろう神かみあり 84
153. 住すめば都みやこ 85

せ

154. 背せに腹はらは変かえられぬ 85
155. 梅檀せんだんは双葉ふたばより芳かんばし 86
156. 船頭せんどう多おほくして船山ふなやまに上のぼる 86
157. 善ぜんは急いそげ 87

そ

158. 総領そうりょうの甚じん六ろく 88
159. 袖そで振ふり合あうも他生たしょうの縁えん 88

160.	^{そな} 備えあれば ^{うれ} 憂えなし	89
------	--	----

た

161.	^{たいがん} 対岸の ^{かじ} 火事	89
162.	^{たいざんめいどう} 大山鳴動して ^{むずみいっびき} 鼠一匹	90
163.	^{たか} 高みの ^{けんぶつ} 見物	91
164.	^{たから} 宝の ^も 持ち ^{ぐさ} 腐れ	91
165.	^{たか} 鷹は ^う 飢えても ^ほ 穂をつまず	92
166.	^{たげい} 多芸は ^{むげい} 無芸	92
167.	^{たけ} 竹を ^わ 割ったよう	93
168.	^だ 出すことは ^{した} 舌でも ^{きら} 嫌い	93
169.	^{たげい} 多勢に ^{ぶげい} 無勢	94
170.	^{たた} 叩けば ^{ほこり} 埃が ^で 出る	94
171.	^{たみ} 暈の上の ^{うえ} 水 ^{すいれん} 練	95
172.	^{ただ} 只より ^{たか} 高い ^{もの} 物はない	95
173.	^た 立つ ^{とりあと} 鳥跡に ^{にご} 濁さず	96
174.	^た 立っている ^{もの} 者は ^{おや} 親でも ^{つか} 使え	96
175.	^た 立て ^{いた} 板に ^{みず} 水	97
176.	^た 蓼 ^く 食う ^{むし} 虫も ^す 好き ^ず 好き	97
177.	^{たて} 縦の ^{もの} 物を ^{よこ} 横にもしない	98
178.	^{たな} 棚から ^ぼ 牡丹 ^{もち} 餅	99
179.	^{たび} 旅の ^{はじ} 恥は ^か 掻き ^す 捨て	99

180.	^{たび} 旅は ^{みち} 道 ^づ 連れ ^よ 世は ^{なさ} 情け	100
181.	^{たま} 玉に ^{きず} 瑕	100
182.	^{たん} 短 ^き 気は ^{そん} 損 ^き 気	101

ち

183.	^ち 血で ^ち 血を ^{あら} 洗う	101
184.	^ち 血も ^{なみだ} 涙もない	102
185.	^{ちゃばら} 茶 ^{いち} 腹も ^じ 一時	102
186.	^{ちょうちん} 提灯で ^{もち} 餅をつく	103
187.	^{ちょうちん} 提灯に ^{つりがね} 釣鐘	103
188.	^{ちり} 塵も ^つ 積もれば ^{やま} 山となる	104

つ

189.	^{つき} 月と ^{すっぽん} すっぽん	105
190.	^{つき} 月 ^よ 夜に ^{かま} 釜を ^ぬ 抜かれる	105
191.	^{つき} 月 ^よ 夜に ^{ちょうちん} 提灯	106
192.	^つ 釣り ^あ 合 ^ふ わ ^{えん} ぬは ^{もと} 不縁の基	106
193.	^{つる} 鶴の ^{ひとこえ} 一声	107
194.	^{つる} 鶴は ^{せんねん} 千年、 ^{かめ} 亀は ^{まんねん} 万年	107

て

195.	^{ていしゅ} 亭主の ^す 好きな ^{あかえ} 赤烏 ^{ぼし} 帽子	108
------	---	-----

196.	て あ くち あ 手が空けば口が開く	109
197.	て はい あし はい 手が入れば足も入る	109
198.	てき ほんのう じ 敵は本能寺にあり	110
199.	うご てこでも動かぬ	110
200.	て うら かえ 手の裏を返す	111
201.	て あし で 手も足も出ない	111
202.	で くい う 出る杭は打たれる	112
203.	て か しな か 手を換え品を換え	112

と

204.	とうだいもとくら 灯台下暗し	113
205.	とう ふ かすがい 豆腐に銚	114
206.	とお ちか だんじょ なか 遠くて近いは男女の仲	114
207.	どく くら さら 毒を食わば皿まで	115
208.	どく くすり 毒にも薬にもならない	115
209.	ふ かぜ どこ吹く風	116
210.	ところ か しな か 所変われば品変わる	116
211.	とし よ ひ みず 年寄りの冷や水	117
212.	となり はな あか 隣の花は赤い	117
213.	とび あぶら あ 鳶に油揚げをさらわれる	118
214.	と とり お いきお 飛ぶ鳥も落とす勢い	118
215.	と ほう く 途方に暮れる	119